

教科目名 環境システム (Environmental System)

学科名・学年 : 土木工学科 5年

単位数など : 選択 1単位 (後期1コマ, 学習保証時間 22.5時間)

担当教官 : 島田 晋

授業の概要		
人間活動の環境に対する影響の歴史と現況を学ぶ。環境科学(人間活動と環境の相互作用についての研究)の成果をどのようにフィードバックすればよいかを考える。今年度は、ごみ問題を中心とする「リサイクル社会への道」について学ぶ。		
到達目標 <span style="float: right;">大分高専目標(B2), JABEE 目標(d1)</span>		
多くの環境問題を解決していくためには、行政による法規制や産業界におき技術革新とともに、私たち自身の環境やライフスタイルに対する意識改革が重要な要素になってきている。ごみ問題、およびゼロエミッションを目指す「リサイクル社会への道」を探る。		
回	授 業 項 目	内 容
1	第1章 危機への挑戦	ごみ問題の危機, シアトル市の挑戦, 逆風を追い風に変えた名古屋市, 問題の提起。
2	第2章 ごみ・リサイクル最新事情	法と廃棄物, 事業系ごみの増減, 家庭系ごみの発生と排出。
3,4	第3章 品目別に見たリサイクル	紙, 容器包装, 生ごみ, 自動車, 家電, パソコン, 衣料品。
5	第4章 リサイクル社会とは何か	持続可能な発展のビジョン, 役割相乗型の社会システム, リサイクル社会の仕組み, 「循環基本法」の特徴。
6	第5章 リサイクル社会を築くために	発想の転換, 日野市の「ごみ改革」, 再生資源の需要の拡大。
7	後期中間試験	
8	後期中間試験の解答と解説	自身の理解力を分析し, わからなかった部分を理解する
9	第5章 リサイクル社会を築くために(続)	古紙需要の増大政策, 再生資源の輸出の拡大, 産業と技術の構造改革。
10,11	第6章 ごみ問題と市民, 企業, そして行政	パートナーシップ論の台頭, ドイツとフランスのリサイクル政策, 自治体の清掃財政, ごみ問題と住民意識, 消費者意識の日独比較, ごみ問題と住民投票, 企業の責任と対応, 業界団体の役割, 市民団体の政策提案。
12,13	第7章 廃棄物ゼロ社会を求めて	リサイクルの目的の歴史の変遷, リサイクル事業の将来像, 環境と経済の両立。
14	後期期末試験	
15	後期期末試験の解答と解説	自身の理解力を分析し, わからなかった部分を理解する
履修上の注意	主として教科書を読み進み, 授業の後半に書き込み式の演習問題によって, 公害の歴史と政治経済学的な側面を学習する。	
教科書	寄本勝美著, 「リサイクル社会への道」, 岩波新書。	
参考図書	早川・種茂監修, 「環境工学の基礎」, 実教出版。	
関連科目	経済学概説, 現代社会。	
評価方法	最終成績 = 0.8 × (2回の定期試験の加重平均) + 0.2 × (課題点)	